

これまでの意見へのフィードバック
((仮) 教育・子育て部会)

NO	日時	意見	対応方針
1	前期委員引継分	こどもたちの居場所づくりについての取り組みのサポート。	30年度運営方針具体的取組2-1-2「地域の誰もが自由に集まれる「居場所」づくり支援」居場所設置・運営に関する助言などの支援を行ってまいりたい。
2	前期委員引継分	自尊感情の向上について、それぞれが自尊感情が持てるような環境づくり。	30年度運営方針具体的取組2-2-1「「生きる力」を身に付けるのに重要な自尊感情の向上」で取り組んでまいりたい。
3	前期委員引継分	既存のゲストティーチャー派遣事業をさらに充実させる。	同上「①自尊感情向上のための教育支援事業」平成30年度より、劇団等を派遣する鑑賞教育事業を実施する。
4	12/22	学習意欲の向上や自分が肯定的になって夢を持って進んでいけるように小さい頃から養えないか。	学習意欲の向上は、学習習慣やそのもととなる生活習慣を改善していく必要があり、居場所づくりなど様々な事業を通して対応していく。
5	12/22	居場所づくりがしやすいような環境の必要性を感じる。	平成29年度に実施した内容を踏まえてより地域でしやすい環境となるよう平成30年度事業実施の際には工夫をしていく。
6	1/18	一人でサロンに行くのは敷居が高い。子育てサロンと訪問が別々に動いているので、連携を取ったほうがいいのか。建物の中に入りづらいこともあるので、できればサロンの人に呼び込みをしていただきたい。通っている人でも声かけして、垣根を低くしてほしい。	平成30年度より登校・登園サポート事業の実施にあたっては、子育てサロンなどとも連携できるように調整を行う予定である。
7	1/18	子ども食堂も増えてきてはいるが、一部の人のみだと感じる。社会的に孤立している人が本当に来ているのか。来ない人をどう動かすか。	各種事業の情報を伝えることが課題。訴求力の高い情報は口コミ。SNSなども、知っている人からの情報の方が伝わる。地域のコアになる人や親しい人から情報をつなげていくのが一番。
8	1/18	子育ての悩みについての相談機関を知らない人が多い。まずは、「区役所に行けば、情報入手や相談ができる」となるように、区役所に来やすい・子どもが楽しめる雰囲気づくりが大事。	子育て情報紙の隔月発行などタイムリーな情報提供やスマートフォンで簡単に情報が入手できるようにするなど情報発信の工夫には取り組んでいます。今後もこういったご意見も踏まえ、情報発信・相談対応に努めていく。
9	1/18	登校登園サポート事業 ・学校に来られない子は家庭環境や背景などがわからないので、井戸端会議のように少しでも話ができるような場所があればいい。居場所があっても本当に支援が必要な子がなかなか来られないようなので、実際にはこの登校登園サポートが必要。 ・これからどんどん地域とか学校とかと連携して広げていくということなので、地域でサポートしていけたらいい。 ・地域で専任者を選ぶのは難しいのでは。学校とも連携して、学校からも依頼してもらった方がいい。	登校・登園サポート事業は平成30年度新規事業であり、実施にあたっては学校などの関係機関や地域とも連携しながらより良いものとなるよう事業を行っていく。

NO	日時	意見	対応方針
10	2/6	朝食が「用意されていない」「食べる習慣がない」というのはショック。ゲームに時間を費やして夜更かしする子ども多い。夜遅くまで起きていると朝までリズムも狂ってしまう。	具体的取組2-2-1の「『生きる力』を身に付けるのに重要な自尊感情の向上」で「体験型食育推進事業」に平成29年度より取り組んでおり、平成30年度も体験型調理実習の実施や小学生の児童向けに食育講演会を開催していくこととしている。
11	2/6	生活環境の習慣づけは小学校・中学校からでは遅い。幼少期に根がある。自分の家庭はこうでも本当はバランスよいご飯を食べるのが当たり前というのを身につける。	
12	2/6	実際学校に行くと「本が嫌い」とは感じない。いいきっかけを与えてあげられたら持続するのでは。習慣づけることが大切。読み聞かせ事業もある。読み聞かせも、親がずっとやるというのはしんどい時もある。地域にお手伝いいただけたら。	ただ地域に絵本をというばかりでなく、絵本が嫌いじゃないけどちょっと敷居が高いなど感じている人にアプローチすることで、家庭での絵本に対する関心を高めることも進めていく。
13	2/6	小学校施設開放を5時位までして、こどもの集まる場づくりを。ボランティアで何かできないか。	既に各学校において、課題を抱える児童・生徒を対象として、放課後の補充指導や自主学習会などの取組が進められている。教職員管理下の校内で行うことは基本は学校教育活動のみであるので、区としてはどのような学校支援ができるのか検討してまいりたい。
14	2/6	学生勉強会はマンツーマンで就学まで対応し一番成果が上がっている。ただ対象者が限られすぎ。学力面は難しくなる高学年で追いつけなくなる。本当は中学生でなく小学生を何とかしないと。	中学生勉強会はあくまでも高校進学及び中退防止を目的としており、小学生などは居場所事業も含めてどのようなアプローチが必要なのか今後検討してまいりたい。